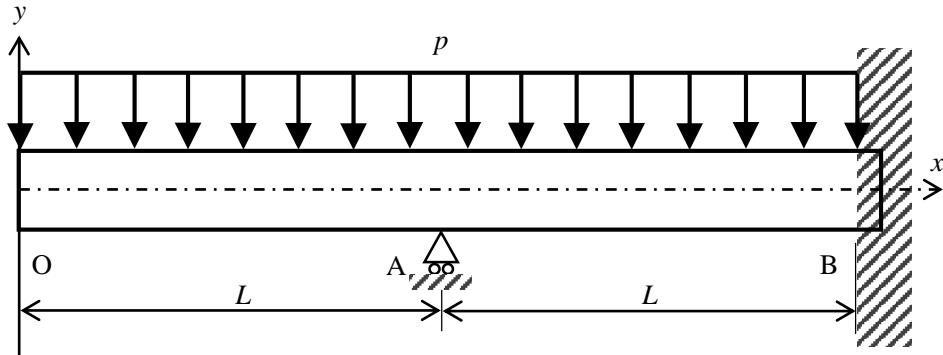


## 材料の力学1 Step2,3 第11回演習問題 (2018/7/10 実施)

- [1] 図1に示すように右端が壁に固定された長さ $2L$ のはりに分布荷重 $p$ が作用している。このとき以下の問いに答えよ。ただし、はりの曲げ剛性は $EI$ とする。



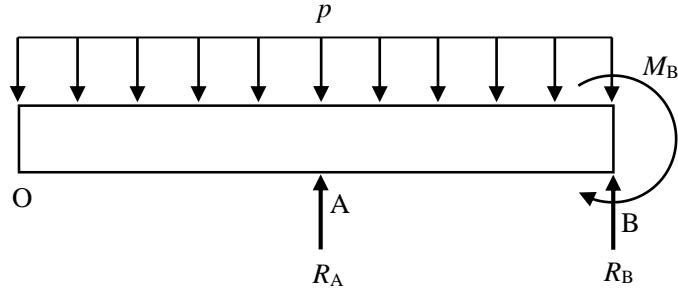
**Fig. 1** 分布荷重を受けるはり

- (1) はり全体のFBDを描き、曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示せよ。ただし、A点の支点反力は $R_A$ とする。
- (2) A点の支点からの反力 $R_A$ 、B点の壁からの反力 $R_B$ と反モーメント $M_B$ を求めよ。
- (3) はりのたわみ角 $v'(x)$ 、たわみ $v(x)$ を表す式を求めよ。
- (4) O点に生じるたわみ $v_0$ を求めよ。

[1]

- (1) はり全体のFBDを描き、曲げモーメント $M(x)$ を特異関数表示せよ。ただし、A点の支点反力は $R_A$ とする。

点Bでの反力 $R_B$ 、反モーメント $M_B$ をおくと、はり全体のFBDは以下のようになる。



**Fig.1.1** はり全体のFBD.

$M(x)$ を特異関数表示すると、

$$M(x) = \frac{P}{2}x^2 - R_A(x-L)^1 \quad (1.1)$$

- (2) A点の支点からの反力 $R_A$ 、B点の壁からの反力 $R_B$ と反モーメント $M_B$ を求めよ。

図1.1より、力のつり合いから、

$$R_A + R_B - 2pL = 0 \quad (1.2)$$

点Bまわりのモーメントのつり合いより、

$$-2pL^2 + R_A L + M_B = 0 \quad (1.3)$$

また、はりとたわみの関係式から、式(1.1)より、

$$\begin{aligned} -EI\nu'' &= M(x) \\ &= \frac{P}{2}x^2 - R_A(x-L)^1 \end{aligned} \quad (1.4)$$

次に $C_1$ 、 $C_2$ を積分定数として、式(1.6)の両辺を2回積分する。

$$-EI\nu' = \frac{P}{6}x^3 - \frac{1}{2}R_A(x-L)^2 + C_1 \quad (1.5)$$

$$-EI\nu = \frac{P}{24}x^4 - \frac{1}{6}R_A(x-L)^3 + C_1x + C_2 \quad (1.6)$$

よって、はりのたわみ  $\nu$  の  $x$  方向変化を  $\nu'(x)$  とおき、境界条件について考える。

点 A では単純支持なので、

$$\nu(L) = 0 \quad (1.7)$$

点 B では固定端なので、

$$\begin{aligned} \nu(2L) &= 0 \\ \nu'(2L) &= 0 \end{aligned} \quad (1.8)$$

式(1.8)を式(1.5)に代入して、

$$\begin{aligned} 0 &= \frac{4}{3} pL^3 - \frac{1}{2} R_A L^2 + C_1 \\ \therefore C_1 &= -\frac{4}{3} pL^3 + \frac{1}{2} R_A L^2 \end{aligned} \quad (1.9)$$

式(1.9)から、式(1.7), (1.8)を式(1.6)に代入して、

$$\begin{aligned} 0 &= \frac{p}{24} L^4 + \left(-\frac{4}{3} pL^3 + \frac{1}{2} R_A L^2\right)L + C_2 \\ 0 &= \frac{2}{3} pL^4 - \frac{1}{6} R_A L^3 + \left(-\frac{8}{3} pL^3 + R_A L^2\right)L + C_2 \\ \therefore R_A &= \frac{17}{8} pL \end{aligned} \quad (1.10)$$

$$C_2 = \frac{11}{48} pL^4 \quad (1.11)$$

式(1.10)を式(1.2), (1.3)に代入して、

$$R_B = -\frac{1}{8} pL \quad (1.11.)$$

$$M_B = -\frac{1}{8} pL^2 \quad (1.13)$$

以上まとめて、

$$(R_A, \quad R_B, \quad M_B) = \left( \frac{17}{8} pL, -\frac{1}{8} pL, -\frac{1}{8} pL^2 \right) \quad (1.14)$$

と求められる。

(3) はりのたわみ角  $\nu'(x)$ , たわみ  $\nu(x)$ を表す式を求めよ.

式(1.9), (1.10)より,

$$C_1 = -\frac{13}{48} pL^3 \quad (1.13)$$

よって, 式(1.5), (1.6)に式(1.10), (1.11), (1.13)を代入して,

$$\nu'(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{p}{6} \langle x \rangle^3 - \frac{17}{16} pL \langle x - L \rangle^2 - \frac{13}{48} pL^3 \right) \quad (1.14)$$

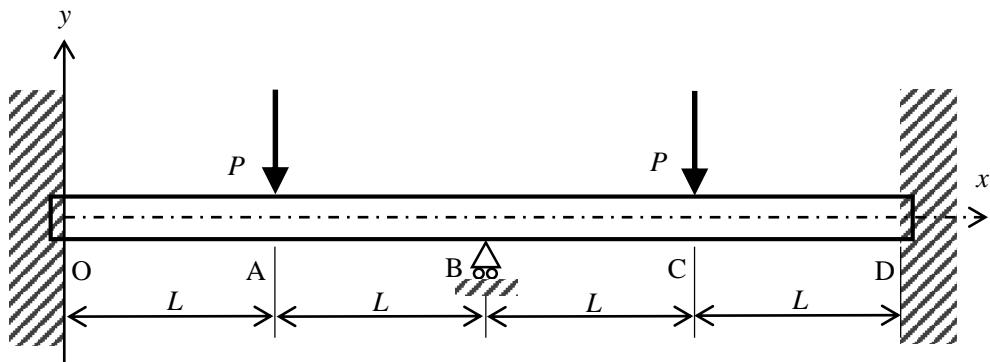
$$\nu(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{p}{24} \langle x \rangle^4 - \frac{17}{48} pL \langle x - L \rangle^3 - \frac{13}{48} pL^3 x + \frac{11}{48} pL^4 \right) \quad (1.15)$$

(4) O 点に生じるたわみ  $\nu_0$  を求めよ.

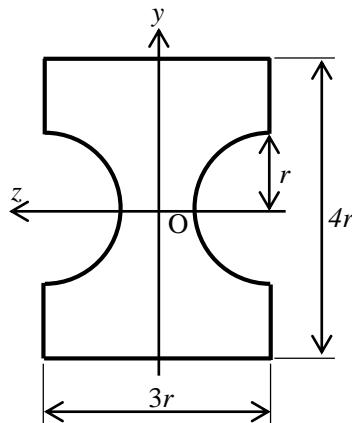
式(1.15)に,  $x=0$  を代入して,

$$\nu_0 = \nu(0) = -\frac{11pL^4}{48EI} \quad (1.16)$$

[2] 図 2 に示すような長さ  $4L$  の両持ちはりに集中荷重  $P$  が A 点と C 点で作用している。また、はりの断面は図 3 に示す形状となっている。この時、以下の問い合わせよ。



**Fig.2** 両持ちはり



**Fig.3** はり断面図

(1) はりの  $z$  軸に関する断面 2 次モーメント  $I_z$  を求めよ。

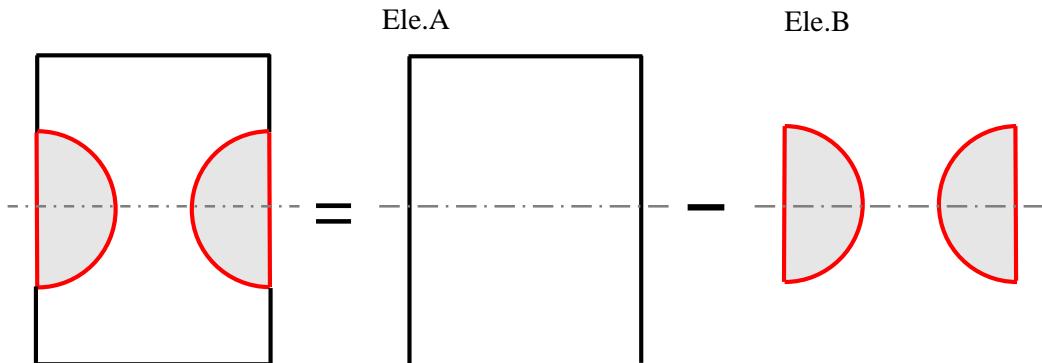
以下の問い合わせでは曲げ剛性を  $EI$  として答えよ。

- (2) 壁からの反力、反モーメントをそれぞれ  $R_O$ ,  $R_D$  および  $M_O$ ,  $M_D$ , B 点からの支点反力を  $R_B$  として、はり全体の FBD を描け。また、はり全体での力のつり合い式、モーメントのつり合い式を求めよ。
- (3) 対称性を考慮して OB 間の曲げモーメント  $M(x)$ について特異関数表示せよ。このとき、B 点での反力は  $R_B/2$  となることに注意せよ。
- (4) 境界条件を考慮して  $R_O$ ,  $R_B$ ,  $R_D$ ,  $M_O$ ,  $M_D$  を求めよ。
- (5) はりに最大たわみが生じる位置を示し、最大たわみ  $v_{\max}$  を求めよ。

[2]

(1) はりの  $z$  軸に関する断面 2 次モーメント  $I_z$  を求めよ.

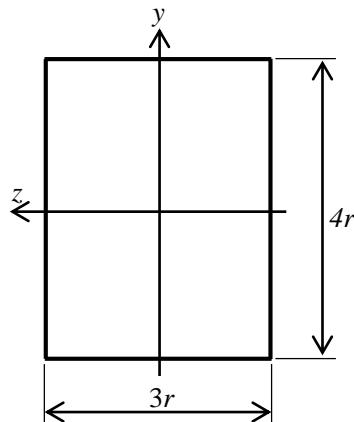
全体の断面二次モーメントは、以下の図に示すように部材 A と部材 B に分け、部材 A の断面二次モーメントより部材 B の断面二次モーメントを引くことで求まる。



**Fig.2.1** 部材の分解図

それぞれの部材における断面二次モーメント  $I_z$  を求める。

i) 部材 A について



**Fig.2.2** 部材 A

長方形より、部材 A における  $z$  軸に関する断面二次モーメント  $I_{ZA}$  は次のように求まる。

$$I_{ZA} = \frac{bh^3}{12} = \frac{3r \cdot (4r)^3}{12} = 16r^4 \quad (2.1)$$

ii) 部材 B について

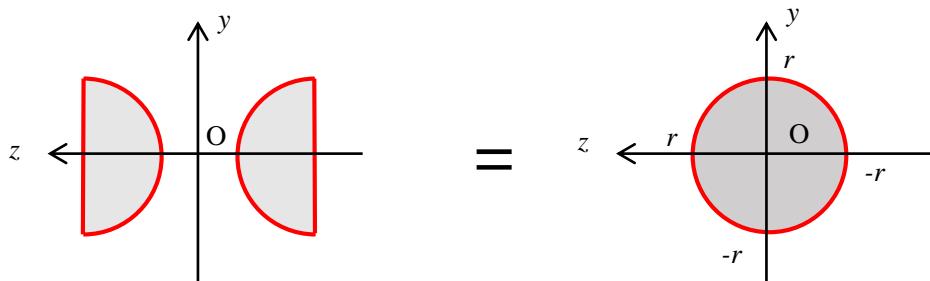


Fig.2.3 部材 B

円形より、部材 B における  $z$  軸に関する断面二次モーメント  $I_{ZB}$  は次のように求まる。

$$I_{ZB} = \frac{\pi r^4}{4} \quad (2.2)$$

式(2.2), (2.4)より、求める断面 2 次モーメント  $I_z$  は、

$$I_z = I_{ZA} - I_{ZB} = 16r^4 - \frac{\pi r^4}{4} \quad (2.3)$$

(別解)

図 2.1 にはりの  $z$  軸に関する断面 2 次モーメントを求める。

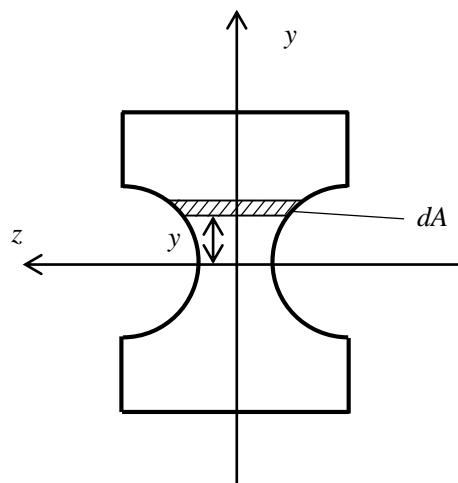


Fig.2.4 はりの断面 2 次モーメントの計算

上図における微小面積  $dA$  は,

$$dA = \begin{cases} \left(3r - 2\sqrt{r^2 - y^2}\right)dy & (-r \leq y \leq r) \\ 3r dy & (-2r \leq y \leq -r, \quad r \leq y \leq 2r) \end{cases} \quad (2.4)$$

よって断面 2 次モーメント  $I_z$  は,

$$\begin{aligned} I_z &= \int_A y^2 dA \\ &= \int_{-2r}^{-r} 3ry^2 dy + \int_{-r}^r \left(3r - 2\sqrt{r^2 - y^2}\right)y^2 dy + \int_r^{2r} 3ry^2 dy \\ &= \int_{-2r}^{2r} 3ry^2 dy - \int_{-r}^r 2\sqrt{r^2 - y^2}y^2 dy \\ &= 16r^4 - \int_{-r}^r 2\sqrt{r^2 - y^2}y^2 dy \end{aligned} \quad (2.5)$$

ここで右辺第二項について,

$$y = r \sin \theta \quad (2.6)$$

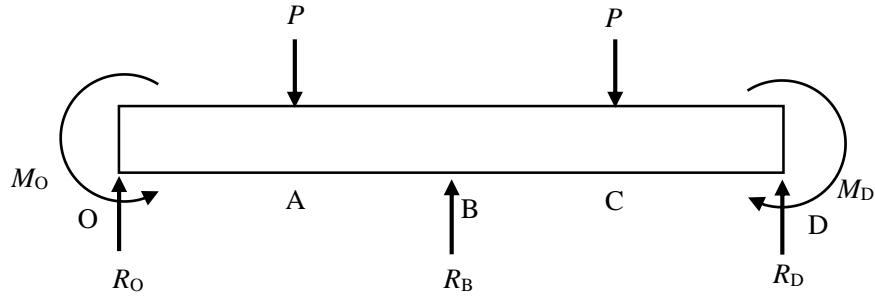
とおけば,

$$\begin{aligned} \int_{-r}^r 2\sqrt{r^2 - y^2}y^2 dy &= \int_{-\pi/2}^{\pi/2} 2r^4 \sin^2 \theta \cos^2 \theta d\theta \\ &= \frac{1}{4} r^4 \int_{-\pi/2}^{\pi/2} (1 - \cos 4\theta) d\theta \\ &= \frac{\pi r^4}{4} \end{aligned} \quad (2.7)$$

式(2.5), (2.7)より, 求める断面 2 次モーメント  $I_z$  は,

$$I_z = 16r^4 - \frac{\pi r^4}{4} \quad (2.8)$$

- (2) 壁からの反力, 反モーメントをそれぞれ  $R_O, R_D$  および  $M_O, M_D$ ,  $\mathbf{B}$  点からの支点反力を  $R_B$  として, はり全体の FBD を描け. また, はり全体での力のつり合い式, モーメントのつり合い式を求めよ.



**Fig.2.5** はり全体のFBD.

力のつり合いより,

$$R_O + R_B + R_D - 2P = 0 \quad (2.9)$$

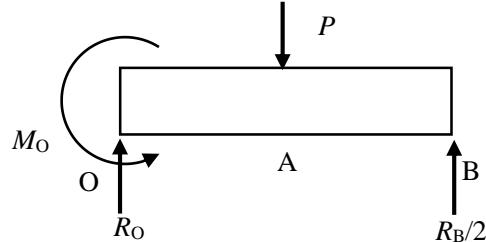
点Oまわりのモーメントのつり合いより,

$$\begin{aligned} -M_O + P \cdot L - R_B \cdot 2L + P \cdot 3L - R_D \cdot 4L + M_D &= 0 \\ \therefore -M_O - 2R_B L - 4R_D L + M_D + 4PL &= 0 \end{aligned} \quad (2.10)$$

(3) 対称性を考慮してOB間の曲げモーメント  $M(x)$ について特異関数表示せよ. このとき,

B点での反力は  $R_B/2$  となることに注意せよ.

対称性を考慮して,  $0 \leq x \leq 2L$  でのFBDは以下のようになる.



**Fig.2.6**  $0 \leq x \leq 2L$  でのFBD.

力のつり合いより,

$$R_O + \frac{1}{2}R_B - P = 0 \quad (2.11)$$

$M(x)$ を特異関数表示すると,

$$M(x) = M_O \langle x \rangle^0 - R_O \langle x \rangle^1 + P \langle x - L \rangle^1 \quad (2.12)$$

(4) 境界条件を考慮して  $R_O$ ,  $R_B$ ,  $R_D$ ,  $M_O$ ,  $M_D$  を求めよ.

はりとたわみの関係式から、式(2.12)より、

$$\begin{aligned} -EI\nu'' &= M(x) \\ &= M_O \langle x \rangle^0 - R_O \langle x \rangle^1 + P \langle x - L \rangle^1 \end{aligned} \quad (2.13)$$

次に  $C_1$ ,  $C_2$  を積分定数として、式(2.13)の両辺を2回積分する。

$$-EI\nu' = M_O \langle x \rangle^1 - \frac{1}{2}R_O \langle x \rangle^2 + \frac{1}{2}P \langle x - L \rangle^2 + C_1 \quad (2.14)$$

$$-EI\nu = \frac{1}{2}M_O \langle x \rangle^2 - \frac{1}{6}R_O \langle x \rangle^3 + \frac{1}{6}P \langle x - L \rangle^3 + C_1x + C_2 \quad (2.15)$$

よって、はりのたわみ  $\nu$  の  $x$  方向変化を  $\nu(x)$  とおき、境界条件について考える。

点Oでは固定端なので、

$$\nu(0) = 0 \quad (2.16)$$

$$\nu'(0) = 0 \quad (2.17)$$

点Bでは単純支持なので、

$$\nu(2L) = 0 \quad (2.18)$$

また、点Bでの対称性から、

$$\nu'(2L) = 0 \quad (2.19)$$

式(2.15), (2.16)に式(2.17), (2.18)をそれぞれ代入して、積分定数  $C_1$ ,  $C_2$  は、

$$C_1 = C_2 = 0 \quad (2.20)$$

よって、式(2.15)に式(2.18), (2.20)を代入して、

$$\begin{aligned} 0 &= 2M_O L^2 - \frac{4}{3}R_O L^3 + \frac{1}{6}PL^3 \\ \therefore 2M_O L^2 - \frac{4}{3}R_O L^3 &= -\frac{1}{6}PL^3 \end{aligned} \quad (2.21)$$

また、式(2.14)に式(2.19), (2.20)を代入して、

$$0 = 2M_oL - 2R_oL^3 + \frac{1}{2}PL^3$$

$$\therefore 2M_oL - 2R_oL^3 = -\frac{1}{2}PL^3 \quad (2.22)$$

式(2.11), (2.21), (2.22)より,

$$(R_o, R_b, M_o) = \left( \frac{1}{2}P, P, \frac{1}{4}PL \right) \quad (2.23)$$

式(2.9), (2.10), (2.23)より,

$$(R_o, R_b, R_d, M_o, M_d) = \left( \frac{1}{2}P, P, \frac{1}{2}P, \frac{1}{4}PL, \frac{1}{4}PL \right) \quad (2.24)$$

(5) はりに最大たわみが生じる位置を示し, 最大たわみ  $v_{max}$  を求めよ.

式(2.15), (2.16), (2.24)より,  $v'(x)$ ,  $v(x)$  は以下のように表される.

$$v'(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{PL}{4} \langle x \rangle^1 - \frac{P}{4} \langle x \rangle^2 + \frac{P}{2} \langle x - L \rangle^2 \right) \quad (2.25)$$

$$v(x) = -\frac{1}{EI} \left( \frac{PL}{8} \langle x \rangle^2 - \frac{P}{12} \langle x \rangle^3 + \frac{P}{6} \langle x - L \rangle^3 \right) \quad (2.26)$$

ここで式(2.25)より,

$$v'(L) = 0 \quad (2.27)$$

が成り立つので, 点 A にて最大たわみが生じ, 対称性から点 C でも最大たわみが生じる.

よって, 求める最大たわみ  $v_{max}$  は, 式(2.26)に  $x = L$  を代入して,

$$v_{max} = v(L) = -\frac{PL^3}{24EI} \quad (2.28)$$